

# 教育とも保育とも違う、 子どもと関わる仕事です。

## 2019年度 **プレーワーカー(職員)募集!** 認定 NPO 法人プレーパークせたがや

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした子どもの冒険遊び場「プレーパーク」で子どもの遊びを活性化させ、子どもの育つ力に貢献することができる職業です。

子どもの視点に立った遊び場を、地域住民と一緒に運営しながら地域コミュニティの一端も担う、教育とも保育とも違う新しいタイプの仕事です。

子ども関係の  
仕事の  
経験の有無は  
問いません  
新人も  
ベテランも  
ウエルカム!!

- ・応募条件 20歳以上(2019年4月1日時点) 性別不問  
子どもの遊び・多世代交流・子どもの居場所・住民主体の地域コミュニティ・まちづくりなどにご興味がある方。屋外での子どもとの活動です。  
※応募にあたっては、説明を必ず受けて下さい。
- ・雇用期間 2019年4月1日～2020年3月31日  
(2年目以降、継続の意志がある場合は再応募可  
一定年数の勤務により正職員への登用試験を受けられます)
- ・給与 年額約260万円(月額約21.6万円)程度(諸手当含む・初年度の場合)  
※経験者の方はその実績を考慮します、詳細はお問い合わせください。
- ・勤務時間 9:30～18:30(内1時間休憩) 残業のある場合あり(残業手当あり)  
※プレーパークの開園時間は10:00～18:00
- ・休日 毎週月曜日・火曜日、有給、夏季、年末年始休暇有(祝日は出勤です)
- ・保険 労働保険(労災保険・雇用保険)、社会保険(健康保険・厚生年金)
- ・勤務場所 世田谷区内4か所のプレーパークのうちいずれか  
①羽根木プレーパーク ②世田谷プレーパーク ③駒沢はらっぱプレーパーク ④烏山プレーパーク
- ・研修 入職前研修あり。毎月勤務日以外に2回プレーワーカー会 実施。

**募集人数1名!** 応募は随時受け付けています。  
(必要人数を満たした時点で募集を締め切らせていただきます)

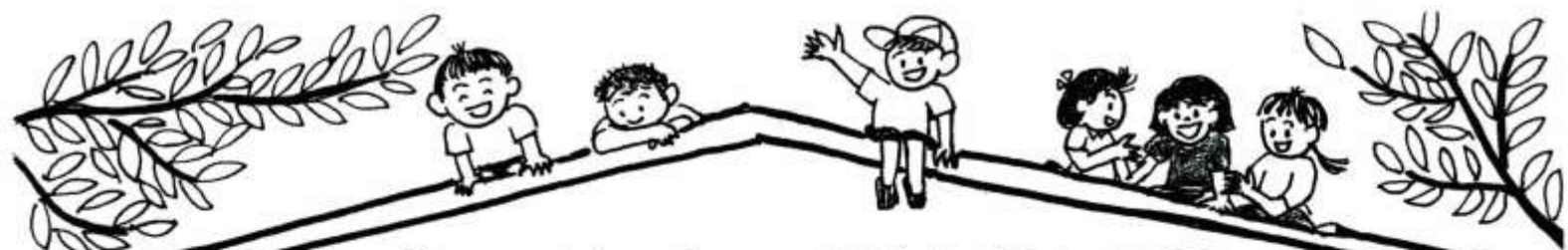
ご興味ある方は事務局までご連絡ください!  
(03-3414-4175 / saiyou@playpark.jp)



プレーパークせたがや  
採用情報ページ

-問い合わせ・応募先-

認定 NPO 法人プレーパークせたがや プレーパーク事業事務局 担当(渡辺)  
〒154-0002 東京都世田谷区下馬 2-20-14 パーム下馬 2階 電話・FAX : 03-3414-4175  
公式サイト : <http://playpark.jp/recruit> E-mail : saiyou@playpark.jp



## プレーパークってどんなところ？

プレーパークは公園での自由な遊びを目指して地域住民とプレーワーカーが中心になって世田谷区の協力を得ながら運営している冒険遊び場です。

子どもが公園で自由に遊ぶには『事故は自分の責任』という考えが基本です。

そうしないと禁止事項ばかりが増えて、楽しい遊びが出来ません。

ですからプレーパークでの遊びは火や工具を使い、廃材で家を建てたり、シャベルで大穴を掘ったり、木登りをしたり、泥山をすべりおいたり従来の公園とは全く違ったものになっています。もともと子どもの遊びはうるさく、汚く、危なっかしいものです。

『でも危険があるから自ら注意をするし、冒険心、挑戦心もわく。少しずつ試してみるから自分ができることできないことがわかる。一人では出来ないから仲間と協力することを覚える。そして小さなケガをくりかえす中で、初めて大きな事故から本能的に自分の身を守るすべを身につけることができる。だからこそ、小さな危険は必要で規制ばかりしてはなにも生み出せない。』そんな親を中心とした地域住民の思いが形になったのがプレーパークなのです。

そしてプレーパークのモットーとして『自分の責任で自由に遊ぶ』という言葉掲げているのです。



## プレーワーカーってなあに？

プレーワーカーとは、PLAY=遊び WORK=従事する人。

子どもの遊びを豊かにし、その世界を広げ、十分な遊び環境が確保できるよう社会に遊びの意義を発信していく専門職を意味しています。

—子どもたちの代弁者として—

遊びの場では、プレーワーカーは子どもと対等。最も子どもに近い存在の大人として子どもでは言えない、また理屈化できない子どもの立場を代弁する役割はとっても大切です。そのままでは大人社会の管理の波をまともにかぶってしまうのが現代の子どもたち。時にはその防波堤ともなり大人たちとぶつかることもありますが、その事を通じて子どもと大人との橋渡しができるのです。

—遊び環境デザイナーとして—

遊びの心は本人が「やってみよう！」と思うこと。そのための刺激は多いほどいいのです。そうした場にするために遊具をつくったり材料や道具を準備したり、いろいろな人間が集える場にするなどたくさんの「おもしろさ」をちりばめ“遊び心”を刺激する環境を整えます。

—相談相手として—

教師でもない、親でもない。子どもをじっくり評価したがる大人が多いなか、それをしないプレーワーカーにだから話せることも多いのです。

—注意を払える大人として—

プレーパークに禁止や制約を書いた看板はないけれど、代わりに状況に応じて、また子どもに応じて注意を払える、歩き、しゃべる立看板がいます。これはまた動きまわる遊具としても大きな人気を保っています。

—ドクター、ジャッジとして—

遊びの世界では何がおこるかわからない。アクシデントやトラブルにすぐに対応できる大人がいます。応急処置は全員が心得ています。

そしてこれら以外にもプレーパークの運営を円滑に進めるための事務や連絡など事務局的な裏方の仕事があります。まさにプレーワーカーは、プレーパークにはなくてはならない存在なのです。

